

LTT (Lines behind Time and Text) シンポジウム

～ デザインプロベナンスデータ体験の創出と展開に向けて ～

日時 2017年3月14日 (火) 15:00-18:00
会場 京都大学百周年時計台記念館 ホールI (2階) (<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/>)

講演プログラム

15:00-15:05 イントロダクション

15:05-16:20 PART 1

合併自治体史のアーカイブと地域の理解

川嶋 稔夫 (はこだて未来大学)

函館市は、昭和時代から平成にかけて7町村が編入合併して現在に至っている。昨年これらの各自治体史のテキスト化が完了し『函館市史デジタル版』として公開されている。地域的に隣接する複数の自治体史データの可能性について議論する。

開発ログデータマイニングとソフトウェア開発の可視化

大平 雅雄 (和歌山大学)

ソフトウェア開発の過程で利用される様々な開発支援ツールは大量の開発ログを出力する。開発ログは本来、開発者や管理者の作業を支援するためのものだが、データマイニングすることにより開発者間のインタラクションやソフトウェア構築過程を可視化しソフトウェア開発全体を俯瞰するためにも利用できる。本発表では、開発ログの可視化例をいくつか紹介し、開発ログデータの可能性について議論する。

ネットワークとメッシュワーク：多数の現象を扱うための記述モデル

北 雄介 (京都大学)

桓武天皇の平安京建設から現代の我々の生活行為に至る、都市におけるさまざまな歴史的現象を関連づけて説明することを試みている。今回は、そのための二つの記述モデルについて、現象の具体事例を交えながら発表する。

16:20-16:30 休憩

16:30-17:45 PART 2

歴史テキストの可視化と時間

赤石 美奈 (法政大学)

膨大な史料を読み解くには、長大な時間が必要とされる。また、デジタル化された史料データに対しても、単純な統計的手法のみでは解析できず、データに対する多様な視点に基づく解釈が求められる。そこで、連続する時間に多角的に裂け目を入れることで現れてくる様々なパターンを視覚化し、新たな知見や様々な解釈を創発する試みについて紹介する。

デジタルメディアによる読むという体験の拡張

小林 潤平 (大日本印刷株式会社)

文章を読むときの視覚メカニズムにもとづき、スムーズな目の動きをうながす表示方式を研究している。より多くのテキストがより早く読める、デジタルならではの日本語リーダーとその効果について紹介する。

デザインプロベナンスの構想と展望

中小路 久美代 (京都大学)

今、眼前にある人工物を構成する各要素の背景や来歴、由来を、デザインが成長する過程で生成され蓄積される、タイムスタンプ付きのデータ空間とのインタラクションから読み取っていくことを、「デザインプロベナンス」として捉えたいと考えている。

17:45-18:00 クロージング